

令和5年度

大阪府障がい児等療育支援事業

専門研修会

# こどもたちと家族の為に ～安心を届ける家族への支援～

2023年10月20日

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園 副園長

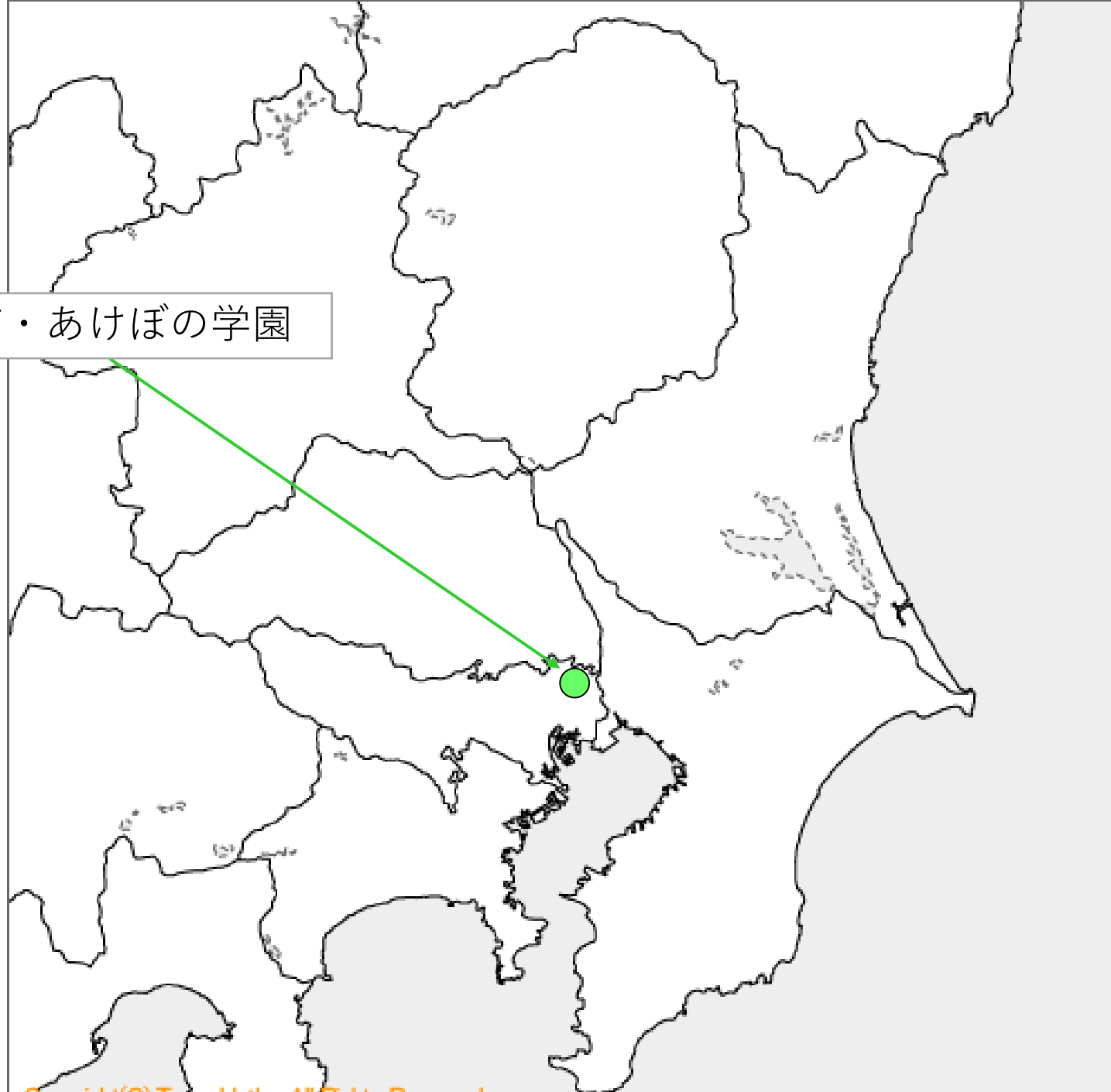
作業療法士 酒井康年

# 自己紹介を兼ねて ～うめだ・あけぼの学園について

- 足立区にある児童発達支援センター
- 1977年2月に設立。
- 0歳児から小学校3年生までの約300名の発達障害のあるお子さんと、そのリスク児が通園。
- その他、保健所、児童相談所、医療機関、保育園、幼稚園、関連支援機関などから紹介され、診断・評価・相談に来園。
- モンテッソーリ法
- 0歳からの発達支援と家族支援。
- 様々な職種によるチームアプローチ。



うめだ・あけぼの学園



# あなたが考える 家族支援とはなんですか？

- 家族指導 とはどう違いますか？
- 家族教育 とはどう違いますか？
  
- 家族に対する金銭的支援ではありませんね
- 家族に対するヘルパー支援でもありませんね
- 家族に対する家事支援でもありませんね
  
- あなたは、障害のある子の家族に対する、理想的なイメージをお持ちですか？
- それは、障害のない子の家族に対する、理想的なイメージと、どのように異なりますか？
- それは、あなたの持つ家族に関する価値観とどのような関係にありますか？

# あなたが考える 家族支援とはなんですか？

- 保護者が、子どもに対して適切な対応が行えるようになる
    - パニックを起こしている子に力づくで押さえつける
    - 言うことを聞かない子に叩いてでも、すべきことを教える
  - 医療的ケアが必要な子に対する、医療的ケアの実施方法の習得
  - 障害のある子に対して、適切な遊びの提供、適切な生活環境の提供をしてもらえるようにする
- 
- では、あなたは親として適切な対応を行えていますか？
  - では、なぜ家族支援を受けなくて良いのですか？
  - 適切な対応とはなんですか？

乳幼児期の  
児童発達支援センターとして  
取り組んでいること

# 子育て支援としての発達支援の提供

- 早期支援ということは、親御さんも親になってまだ日が浅い。  
一人目の子どもであればなおさら
- 当たり前の子育て経験の不足
- 初めて経験する、子どもを育てるということの大変さ、に加えて
- 障害への理解と障害への対応が求められる

# 子育て支援としての発達支援

- 障害児の親のプロトタイプを作るのではない
- 不真面目な親がいてもいいじゃないか
- 親も子育てという作業が遂行できるように。家族という生活が営めるように。

かわいいなあ。良いなあ、子どもって。抱きしめる。あやす。叱る。遊ぶ。一緒にご飯を食べる。一緒にお風呂に入る。写真を撮る。公園に行く。買い物に行く。年中行事。地域活動。



# なぜ、このような対応が必要か

- 不安、悩み、混乱、困惑、怒り・・・
- 孤立、孤独
  
- 子育てへのエネルギーがリスクに
- 前向きに歩いていくことがリスクに

# なぜ、このような対応が必要か

- いきなり、訳もわからず、理由もわからず、知識の準備もなく、当然心の準備もなく
- みんなは断片的には説明したり、道具の使い方は説明したりしてくれるが
- こんなもんかと育てているが、ひとまず見よう見まねで育てているが

でも、目の前の子は  
来る日も来る日も

- 泣き止まない
- 寝ない
- 呼んでも振り向かない
- パニックを起こす
- ミルクを飲まない
- 引っ掻く

- 突っ張る
- 発作を起こす
- 呼吸を止める
- 吸引しないと酸欠になる
- 酸素を止めたら、死んじゃう

私が何かしないと、この子と私に明日は来ない

# 私が考える 家族支援におけるキーワード

- 子育て支援
- 仲間づくり
- エンパワメント

子育て支援

# まずは、目の前にある些細な、それでいて重大な疑問に答えることがスタート：子育て支援

- 今日、帰りながら、どうしたらよい？
  - 家に帰ったらどうしたら良い？
  - 寝る時にはどうしたら良い？
  - 風呂に入れる時にはどうしたら良い？
  - ご飯食べる時にはどうしたら良い？
  - この子が寝た後はどうしたら良い？
  - この子と遊ぶにはどうしたら良い？
- 
- この子のこと、かわいいと思えるのかな

家族支援における  
仲間づくり

# 支援を必要とする子どもの保護者としての 仲間作りの重要性

- 同じ境遇にいる仲間の発見  
    ～ピア、メンター～
- 私の悩みは誰も分かってくれない  
    → 同じ悩みを共有できる
- 友達ができること  
    ～社会参加の一つ～
  
- 女性のもつ社会性
- 男性のもつ社会性

# ピア や メンター

- ピア : peer
- 同僚、仲間
- ピアカウンセリング
- ピアグループ
- メンター : mentor
- 優れた指導者、助言者、信頼のおける相談相手
- 「ちょっと先行くママ友」 byある保護者の声





# 同じ悩みの共有

- 「私の悩みは誰も分かってくれない」
- → 「私だけの悩みではなかった」
  
- “あるある話”ができる
  - 薬のあるある
  - 医ケアのあるある
  - ダウンのあるある
  - 自閉のあるある
  - ダンナのあるある
  - 親族のあるある

家族支援を通じて  
目指すこととしての  
エンパワメント

# エンパワメント Empowerment

- 人々に夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っているすばらしい、生きる力を湧き出させることである

日本ケアマネジメント学会編集：ケアマネジメント事典， p31

- 自分の自己実現の1つである仕事が充実することで
- 生活が安定することで
- 子育てが充実することで
- 仲間ができることで（孤立しないことで）

# 家族支援における 発達（本人）支援の役割

- 子どもの可能性（育ちや能力）をカタチにする
- 子どもの可能性（育ちや能力）を可視化する
  
- 自分の知らない子どもを発見する
- 子どもの健康的側面を発見する
  
- 子どもを理解することを助ける
- 子どもへの関わりのロールモデルとなる

子どもが成長したことに気づくことで

初めて

子どもの育ちに信頼が持てる

過去に信頼が持てることで

初めて

未来に期待が持てる

夢や希望が生まれる

家族支援を行うにあたって

# 例えば、こんな保護者

- 小学生の登下校で、
  - 心配だけど、家から送り出すだけ
  - 心配だから、お友達と会うあの交差点まで、ついて行く
  - 心配だから、お友達と会っても、200m一緒に歩いていこう
  - 心配だから、校門まで一緒に歩いていこう
- 自分なら、どう選択しますか？
- 上のそれぞれの保護者をどう思いますか？

# こんな状況が加わったら？

- ただし
  - 校門まで歩いて5分
  - 校門まで歩いて15分
- 小学生といっても
  - まだ1年生
  - そろそろ3年生
  - もう6年生
  - まだ6年生
- そうは言っても
  - 私にも仕事がある
  - 生まれて間もない下の子がいる
  - 夫が家事はすべてやってくれる
  - 私、熱を出しやすい
  - 一度に二つのことは手につかない

自分の感覚で話を聞かない



# よく聞く話

- 家で甘やかしているから、行動のコントロールができないのではないか。
- 言葉で話せるのに、言葉で言わないで、パニックになったり、暴力をふるったり。あれって、家で親御さんが全部やってあげているからだよな。
- あの子、好きなことやめられないよね。家で、ずっとYouTubeなんだから。小さい頃から見せているから、やめられないんだよな。
- などなど、親が悪者になる場面

# 家で甘やかしているから、行動のコントロールができないのではないか。

- 親が家で甘やかしていると、全ての子どもが、行動のコントロールができなくなるのでしょうか？
- 家で親が甘やかすって、当たり前。甘やかさないと、「愛情不足」って言いませんか？
- このおうちに、きょうだいがいますが、他の子達は、このような課題を抱えずに育っていますが、それはどう説明しますか？

言葉で話せるのに、言葉で言わないで、パニックになったり、暴力をふるったり。あれって、家で親御さんが全部やってあげているからだよね

- うまく話ができない子に対して、気持ちを読み取ってあげてください、涙み取ってあげてください、とアドバイスしたことはない？
- 親が、対応していなかったら、「親が気持ちを汲んであげないから、もっとかまってって、訴えているんだよね」と解釈しない？
- 「やればできる」と思っている部分はあるかもしれないが、「やってもできない」から本人も周囲も困っている

あの子、好きなことやめられないよね。家で、ずっとYouTubeなんだから。小さい頃から見せているから、やめられないんだよね。

A) YouTube見せる →ずっと見ている →切り替え悪い

B) 切り替え悪い →すぐパニックになる →YouTube見るとひとまず落ち着く →他に手が無い

• Aですか？ Bですか？

• 原因と結果 因果関係は正しいですか？

• YouTubeを、パニックを起こさずに、やめさせる得策があれば、ぜひ紹介してやってください

# よく聞く話 の続き

- これらの「よく聞く話」は支援がうまくいっている時は、出てこない
- 自分たちの支援がうまくいかなかったり
- 保護者との連携がうまくいかなかったり
- そんなときに悪者探しが行われ、手っ取り早く、悪者にされることが多い、ように思う

# 保護者に話すときに 気をつけていること

- 子どもを見る
- 性格を見る
- キャラクターを見る
- 専門用語の使い方
- 保護者の不安・心配を理解する努力をする
- そのために、保護者のシチュエーションを想定して話を聞く
- 自分の感覚で話を聞かない

# 例えば、こんな保護者

- 小学生の登下校で、
  - 心配だけど、家から送り出すだけ
  - 心配だから、お友達と会うあの交差点まで、ついて行く
  - 心配だから、お友達と会っても、200m一緒に歩いていこう
  - 心配だから、校門まで一緒に歩いていこう
- 自分なら、どう選択しますか？
- 上のそれぞれの保護者をどう思いますか？

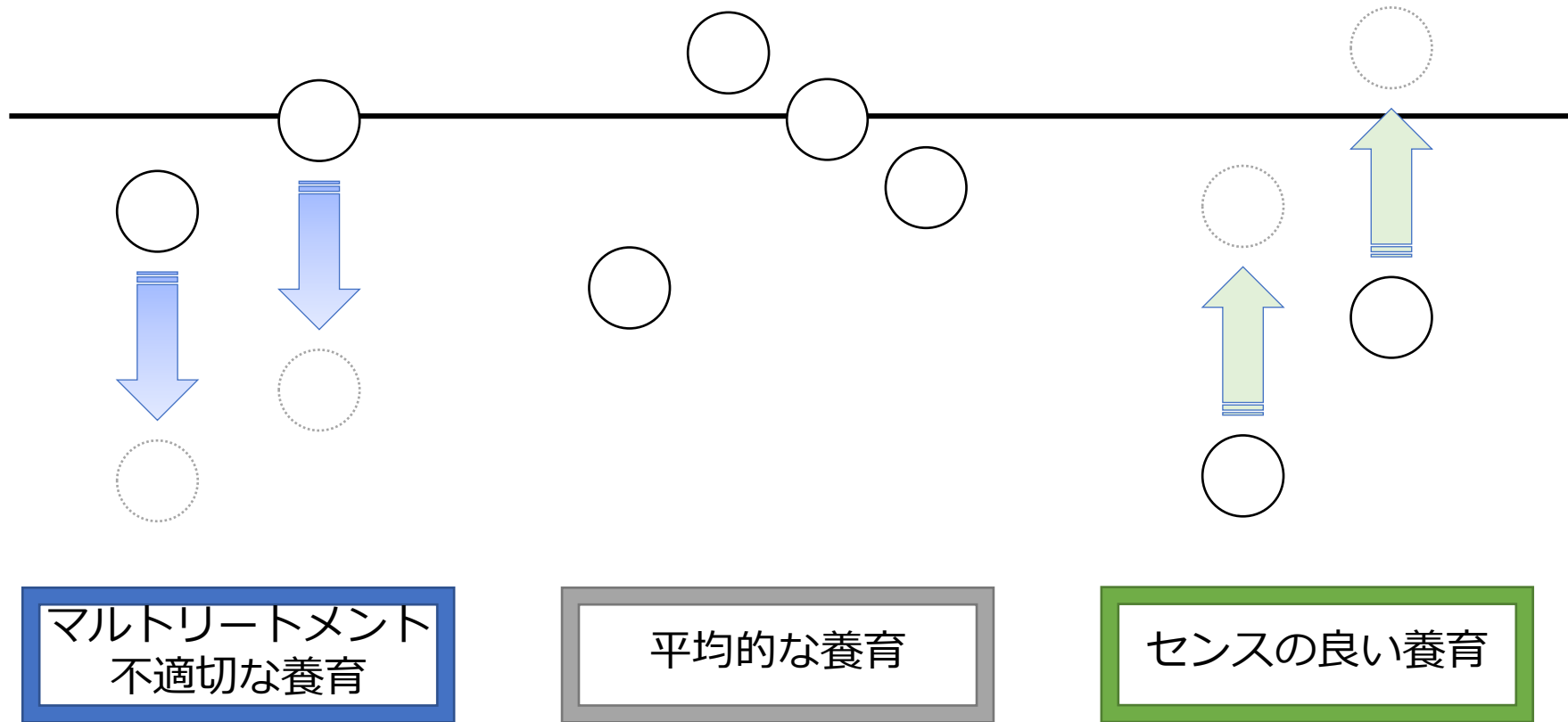
# こんな状況が加わったら？

- ただし
  - 校門まで歩いて5分
  - 校門まで歩いて15分
- 小学生といっても
  - まだ1年生
  - そろそろ3年生
  - もう6年生
  - まだ6年生
- そうは言っても
  - 私にも仕事がある
  - 生まれて間もない下の子がいる
  - 夫が家事はすべてやってくれる
  - 私、熱を出しやすい
  - 一度に二つのことは手につかない

自分の感覚で話を聞かない



# 親を見るときに



# 保護者を支援する時に考えること

- 家族それぞれに、自分の家族に対する価値観がある
- 家族それぞれに、自分の子育てに対する価値観がある
- 家族がそれぞれに持っている価値観は尊重されるべきである

# 障害を望んで生む親はいない

- 多くの親御さんは、みんなと同じように、輝かしい未来に対する夢と希望を持っていた
- 障害のある子どもの親に立候補したわけではない
- 障害のある子どもが生まれるというイメージは誰も持っていない
- 自分の人生観の喪失。人生プランの喪失

# 保護者から情報を聞き出す

- 場面を限定する
  - 具体的な場面で聞いていく
  - そんなときどうしている？
  - 伝える内容は、Negativeなものだけでなく
  - 困っている = 困っているとは園ではない = 追い出されない
- 
- 以下は別のこと
  - 子どもの情報をどう伝えるか
  - 子どもの事を受け入れられるか
  - 親が専門機関につながるか

親になること

# 親になること

子どもが生まれたら、即親になれるのか？

- 社会的な意味合いと、心情的な意味合いと
- 親としての役割遂行
- 子どもに対する愛情は？
- 子どもが可愛くない、ってヘン？

# 子どもとの相互作用により 醸成されるもの

- 子育てのエネルギー
- 子どもへの声かけ、あやし
- 子どもへの愛情
- 親としての自信、親としての自己有能感

# 親の失敗体験 親の自信・自己有能感

- 「あやしても笑ってくれない」
- 「抱いても泣き止まない」
- 「ミルクを上手に飲めず、そり返って泣いてしまう」
- 「多動で親の制止が効かない、叱ると逆にパニックになる」
- 失敗体験や裏切られ体験が積み重なり、親の育児に対する自信のなさを増強させてしまうのです…

「子育てを支える療育」宮田広善 ぶどう社



# ライフステージごとの 家族支援

# 乳児期・幼児期とは

- 親御さん自身にとってみても、大抵の親御さんは、まだ若い。  
20代～30代
- 親御さん自身が夫婦として、個人として、社会的な基盤がやっと安定してきた頃
- 経済的な状況も含めて
  
- 夫婦の関係も、まだ構築の緒についた頃

# 乳児期・幼児期とは

- 一般的に言われていることとして現代の親御さんの世代は
  - 当たり前の子育て経験の不足
  - 子育て支援の不足 社会的にも 家族的にも
- 初めて経験する、子どもを育てるということの大変さ、  
に加えて
- さらに、障害への理解と障害への対応が求められる

# 親になること

子どもが生まれたら、即親になれるのか？

- 社会的な意味合いと、心情的な意味合いと
- 親としての役割遂行
- 子どもに対する愛情は？
- 子どもが可愛くない、ってヘン？

安心できる環境に

## 家庭を 「心のガソリンスタンド」に

どうして？

### 元気になれる 場所が必要だから

発達障害の子は、少数派です。他の子にはない特性があるために、社会で生きていくことに苦労しています。わかりにくいこと、困ることが多く、1日ですすと疲れきってしまいます。せめて家庭はリラックスできる場所であってほしいのです。

### 少数派だから 疲れやすい

学校でも地域でも、ものごとを理解することにも、行動することにも手間や時間がかかり、疲れやすい

### 安心できれば 元気になれる

家庭でも他の場所でも、理解者がいて支援が得られるところなら、安心できる。リラックスして元気になれる



学校でがんばって疲れたら、家に帰ってリラックス。心のガソリンを満タンに

# 家庭の役割

藤野博

発達障害の子の立ち直り力「レジリエンス」を育てる本  
2015

就学にあまつわるあれこれ

# 相談の内容と対象と 我々の守備範囲の確認

- 就学相談 : 保護者が、我が子の就学について、教育委員会に対して行う相談。【就学先の検討・決定】が主なテーマ
- 就学に関する相談 : 保護者が、我が子の就学について、様々な人に対して行う相談。就学先について、どう考えたら良いかを相談する。【就学先の選択に関する相談】 【就学選択の実行に関する相談】 が主なテーマ
- 就学相談に関する相談 : 保護者が、教育委員会との間で行われている就学相談の進め方に関して行う相談。【就学相談の進め方に関して】 が主なテーマ

# 就学に関する相談

## 就学にまつわる相談

- 正確には、就学に関する、**保護者の持つ悩み**に対しての相談
- 「保護者の持つ」「悩み」への相談
- 答えるべきは、「**保護者の抱えている悩み**」



就学後の  
学齢期の保護者

# 乳幼児期から学齡期へ

## 乳幼児期

- 子どもとの出会い
- 要支援状況との出会い
- 子どもと共に親になっていくプロセス
- 就学の選択

## 学齡期

- アットホームな乳幼児期環境から自立文化の学校教育環境へ
- 本人の自立支援へのプロセス
- 本人と家族の距離感の形成
- 種々の進路選択

# 乳幼児期を 就学相談を どう経験してきたか

- サポートティブな環境で子育てをしてきたか
- 相談の効果、相談支援の効果を実感してきているか
- 就学相談は、十分に話し合いを行なって“相談”ができてきたか  
（“誰か”の期待する進路になったか、ではなく）

# 保護者も子どもも 学校文化へのソフトランディング

- アットホームな乳幼児期環境から自立文化の学校教育環境へ
- 乳幼児期は全人的教育と子育て支援 を実現する場
  - 子どもの人生の礎を作る場
  - 家庭的雰囲気は必須の支援環境
  - 子育てを支援することがメインの環境
- 児童生徒本人への学校教育 を実現する場
  - 子ども本人の学校教育を提供する場
  - 広義の教育と学校教育（cf：家庭教育、地域教育）
  - 学習指導要領に家族支援は位置付けられていない
- 子どもの全てが見えなくなっていく、知らないことが増える
- 自分で行うべきことが増える
- 全般にサポーターティブさは薄れていく

# ライフステージの変化に伴う 一般家族のあり方

- 子どもの成長に伴い、活動単位が家族から友人等へ
- 保護者の自己実現
- 保護者の就業希望
- 保護者の高齢化
  
- 種々の進路選択
  - 塾、部活、進路・・・
  - 子どもの人生に占める学校教育の割合の減少

# 第三の居場所の必要性の理解

- 第1 <家族> 第2 <学校> 第3 <〇〇>
- 一般の子どもたちは、趣味や興味、家族状況などに基づいて確保される、第3の、第4の居場所
- 支援が必要な子どもは、支援が必要であるがゆえに、家族ではない第三者による安全で、安心できる支援を受けることができる、第3の居場所が必要になる
- 意図的に用意しないと、家族の中に収まってしまう

# 小学校・中学校で発見される 要支援児

【それまでの子育て経験の中で】

- まったく触れられてこなかった = 晴天の霹靂
- 少し触れられていた = 見たくなかった、否定できることを望んでいた
- 受けてきた支援のトラブル、支援のトラウマ = 触れてほしくない

# 究極は本人支援と家族支援で異なる支援の可能性

- 本人を支援する
- 家族から独立させることも視野に入ってくる
  
- 乳幼児期と、学齢期では、ウェイトの置き方が変わってくる
  
- 既存の価値観に、社会の価値観に、反旗を翻す時期
- 社会の価値観を代表する親に反抗することで、自己の確立を目指すのが思春期



本人が青年期を迎えた時期に  
おける  
家族支援

# 本人と家族は、利益が相反することは少なくないし、珍しくない

- 本人の権利擁護としてのありよう
- 家族が望むこと
  
- この時期の家族支援は、利益相反を起こしている場合には、我々の支援対象ではなくなる
- その家族：多くは保護者やきょうだいそのものが、支援対象となる可能性が高くなる
  
- 保護者は年を重ねる
- 年を重ねると、一般にライフスタイルを変更することが困難になる
- 年を重ねると、一般に価値観の変更が困難になる

# 本人の権利擁護が最優先課題

障害者虐待のリスクから本人を守る

- ネグレクト、心理的虐待、身体的虐待、性的虐待、経済的虐待

本人の自己実現を支援する

- 意見表明支援・意思決定支援が重要に

まとめ

# 行動は環境との相互作用とは言うけれど

- 育てたように子は育つ
- とは言うけれど
- すべてが育て方のせいではない
- すべてが親のせいではない
- 学校での姿が全て良いとも限らない
- 学校は、あれこれと育て上げた後で出会っている環境である

良いことは、親のせいに、育て方のせいにしよう  
学校でうまくいっているのは、育て方が成功したこと  
しておこう

子どもは、社会の影響を受けて育つ  
子どもは、社会の影響を受けないで育つ

- 親の影響 を 受ける部分 受けない部分
- 教育（幼児教育・学校教育）の影響 を 受ける部分  
受けない部分
- 社会のメディアの影響 を 受ける部分 受けない部分
- 文化の影響 を 受ける部分 受けない部分
- 時代の趨勢・潮流 を 受ける部分 受けない部分
  
- 本人が持っているアンテナ

# 家族と【連携】する

- それぞれの役割や意見を持ちながら、有機的な連携をする
  - そのためには、話し合いが重要
  - 情報の共有と、情報の交換が必要
  - 意見の違いがいけないわけではない。双方に「違う」ことを認識することが重要
- 
- 協力をお願いをすること は必要
  - それは連携ではない。依頼である

子どもへの支援状況に対して  
疑問を感じた時には



# さまざまな状況における 子どもの姿の把握をしましょう

- その子は、学校でどのように過ごしているか
- 学校での友達関係はどのようになっているか
- 学校での支援状況はどうなっているか
- 地域で友達と遊んでいる時の状況はどうか
- その他の施設を利用している時の状況はどうか

# 支援状況について 保護者から話を聞く

- どんな支援を
- どれだけ受けているのか
- 支援先からは、対応の工夫や、気を付けることなど教えてもらっていることはないか
- 支援先と情報共有をしたい！と許可をもらう

# 放課後等デイサービスなどを 利用している場合

## 制度上

- **相談支援専門員** が担当し
- **サービス等利用計画** を作成し
- 行政が支給決定をし
- **通所受給者証** が交付される

障害者手帳（愛の手帳、身体障害者手帳、精神障害者手帳）とは異なる通所支援を受けるための証明書

放デイだけでなく、対象となる子どもの生活全般を見渡して、保護者と一緒に、生活の組み立てをおこなってくれる役割

子どもを専門にしている事業所が少なく、担当していない場合もままある

対象となる子が、どんな生活を目指して、1週間どんな生活をしているか、計画が記載されている。  
どんな支援をどれだけ受けているか記載されている。

保護者が持っている利用計画を見せてもらい、**計画全体を把握し、自分の事業所の立ち位置や役割を確認する**。相談支援専門員から直接話を聞くことも可能

# 地域連携と家族支援で注意すること

- 我々、連携先、家族という利害関係が入り乱れた三者が関係し合う状況にある
- 一方的な情報で判断すると、解釈や、事実そのものが異なっていることが、よくある
- 「また聞き」で判断しない、動かない。必ず確認をする
- 自身の立ち位置を意識する。戦略的に使う
- 連携とは情報交換であり、情報共有であり、役割分担である

連携することによって  
課題解決を図る場合

# 課題を見立てる、焦点化する、 優先順位をたてる

行動を把握し、その要因がわかり、仮説がたったら、次は

# 優先順位をたてる

- できないことが、すべて目標になるわけではない
- 気になることが、すべて目標になるわけでもない
- すべてを本人の努力だけで解消することがベストとは言えない
- 時間をかけることのメリットとデメリットを整理して、把握すること
- 全ての情報の中から、優先順位をたてる

# 子育て支援と親としての経験

- 親にならないと子育て支援ができないか
- 親になれば子育て支援ができるか
- イマジネーションの問題
- 立場を置き換えて想像ができるかどうか
- 親になった方が、有利な点はある。
- 不利な点は自分の経験則ですべてを判断するリスクが生じること
- 親にならない不利な点は、生活のすべてを想像することは容易ではないため、経験で補えない
- 親にならないメリットは、感情論ではなく、理論・理屈で整理をすることが可能となる。



# あなたが考える 家族支援とはなんですか？

- 家族指導 とはどう違いますか？
- 家族教育 とはどう違いますか？
  
- 家族に対する金銭的支援ではありませんね
- 家族に対するヘルパー支援でもありませんね
- 家族に対する家事支援でもありませんね
  
- あなたは、障害のある子の家族に対する、理想的なイメージをお持ちですか？
- それは、障害のない子の家族に対する、理想的なイメージと、どのように異なりますか？
- それは、あなたの持つ家族に関する価値観とどのような関係にありますか？

# 参考文献

- 玉井邦夫：エピソードで学ぶ 子どもの発達と保護者支援，明石書店，2018
- 三浦幸子：心の理解と家族支援，2020
- 中田洋二郎：子どもの障害をどう受容するか，大月書店，2002
- 田島明子：障害受容再考，三輪書店，2009
- 藤野博：発達障害の子の立ち直り力「レジリエンス」を育てる本，2015